

水木しげる氏

表紙絵

＝おい鬼太郎 これに乗って帰るぞ＝

表紙絵：水木しげる

- ・ 特集：はじめての人のための地域資料入門 2～5
- ・ 水木しげるさんのコーナーができました 6
- ・ 『調布市立図書館50周年記念写真集』を発行 6
- ・ 『FC東京選手の私のすすめるこの一冊 2017』 7
- ・ 都立神代高等学校の生徒さんがポスターを描いてくれました 7
- ・ 郷土の歴史と伝承 8



はじめての人のための地域資料入門



調布市立図書館公式キャラクター じろ

調布市立図書館は、調布についての専門図書館です。
 調布に関連するさまざまな分野の資料を集めています。
 「地域資料」と聞いても、どんなものか想像がつかない方が多いかもしれません。
 今回は調布市立図書館の地域資料をご案内します！



そもそも地域資料って何？

図書館では図書・雑誌・地図など、図書館が集めている情報源をすべて「資料」と呼びます。その中で調布に関する資料をはじめ、関連の深い東京都や多摩地域、多摩川などの資料を「地域資料」としています。



▲図書館開館を伝える「市報ちょうふ」



なぜ集める必要があるの？

調布に関する資料は、調布の図書館が責任をもって集め、保存しなければ失われてしまう可能性が大きいためです。加えて調布の歴史や文化を次の世代へ残すため、市民のみなさんの調布への理解や、市政への積極的な参加の助けとなることも目的としています。一見して「図書館で保存するものなの？」と思う資料が、数十年後貴重な地域資料となる場合もあるのです。



どんなものがあるの？どれくらいあるの？

図書はもちろん、地図やリーフレットなど様々な形の資料があります。調布市の事務報告書や予算書などの市政に関する資料をはじめ、深大寺や武者小路実篤に関する資料、商店街マップ、調布に関連する企業や人物に関する資料、学校だよりやガイドブック、調布市で行われたイベントのパンフレットなどもあります。

調布市立図書館全体でおよそ 70,000 点を保存しています。



どうやって集めているの？

集める方法は購入、寄贈の2種類があります。購入する資料は一般の書店から買えるものもありますが、出版社を通さず発行された、書店に並ばない資料もたくさんあります。その場合、発行者と直接連絡を取って購入したり、著者のご厚意により寄贈いただいたりします。絶版になった古地図や古書などは古書店を通して購入しています。

調布市が発行した刊行物(資料)は市役所の公文書資料室を通して図書館へ届き、そのほとんどを網羅しています。また、駅や商店街等、街中で配られているチラシやパンフレットは職員が出向いていただいています。



▲市内の地図資料
書店では買えないものもある



どこで見られるの？借りられるの？



▲ガイドブックや写真集なども
借りることができる

中央図書館5階参考図書室の中に地域資料コーナーがあり、そこで利用することができます。また、市内の各図書館にも地域資料コーナーがあり、比較的新しい資料を揃えています。

中央図書館の地域資料コーナーでは、市民である著者から寄贈を受けた「市民文庫」、調布市の名誉市民に関する資料をそろえた「名誉市民コーナー」など、調布市ならではの資料が充実しています。

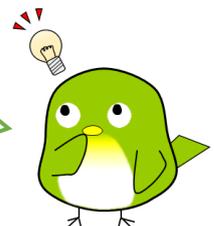
保存のため貸出していないものもありますが、多くの地域資料は借りられます。

調布市立図書館地域資料コーナーには調布の歴史を知るための資料が多くあります。

また、調布の今を知るための資料も揃えています。

そして、地域資料は紙の資料だけではありません。

次のページでは、新しい形の地域資料をご紹介します！



調布デジコンをご利用ください！

「調布デジコン」とは、調布市立図書館デジタルコンテンツデータベースのことです。図書館が独自に作成しています。



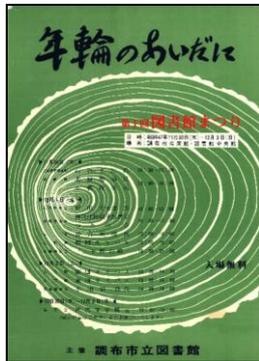
どこで見られるの？何が見られるの？



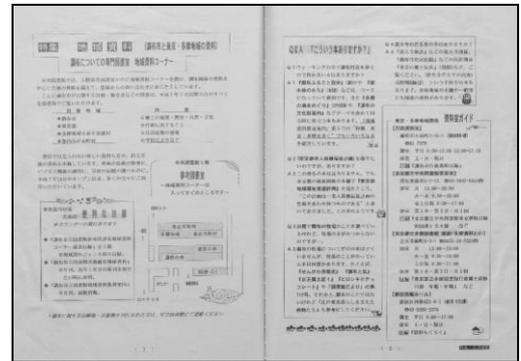
調布デジコンは、図書館にある館内蔵書検索用パソコン「ぴゅー太」から見るができます。デジタル化しているのは、調布に関する「新聞記事」、調布市花火大会や図書館まつりなどのポスターを集めた「地域資料ポスター」、映画資料コレクションのひとつ「映画ポスター」、図書館が発行している「図書館だより」です。「新聞記事」と「図書館だより」は中央図書館5階参考図書室の専用端末から印刷することもできます。



▲第3回調布市花火大会



▲第1回図書館まつり(樟まつり)



▲図書館だより

その他のコンテンツ

調布市立図書館ホームページでは地域資料に関するさまざまなコンテンツを作成しています。ぜひ一度のぞいてみてください。

■■調布の出てくる本■■

本の題名に調布ということばは含まれていないけれど、調布や調布に関する人・もの・ことがのっている本のリストです。調布というキーワードで探ただけでは出会えない、調布の魅力が詰まった本をたくさんご紹介します。

■■調布の地図リスト■■

古いものから新しいものまで、テーマ別に調布が含まれる地図が掲載された資料の一部を紹介しているリストです。

■■ちょうふ写真館■■

調布市内にある駅の昔の姿や、市内各図書館の開館当初の写真を見ることができます。

ここにもある！地域情報 レファレンス回答事例集

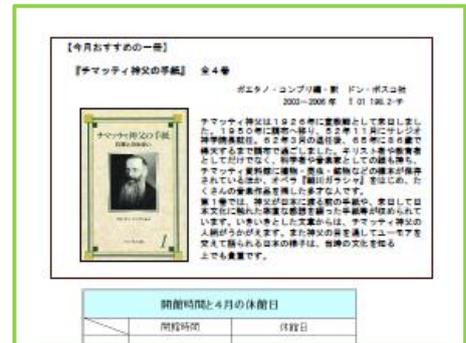


地域資料を使って調べた事例（レファレンス回答事例）を調布市立図書館ホームページや館内蔵書検索用パソコン「ぴゅー太」で紹介しています。図書館ホームページの「レファレンスサービス」にある「レファレンス回答事例」から見るができます。質問種別（NDC）の項目で「T 地域資料」を選ぶと、地域に関する事例だけを見ることができます。

あたらしい資料に出会う！ 地域資料新着案内

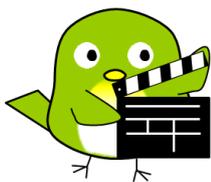
毎月、地域資料新着案内を発行し、全館で配布しています。また調布市立図書館ホームページの「調布についての情報」からも見るができます。

新しく入れた地域資料のリストに加え、今年1月から「今月おすすめの一冊」コーナーも始まりました。地域資料担当一押しの本を紹介していますので、ぜひご覧ください。



地域資料・映画資料の収集にご協力ください！

調布市立図書館では、調布市に関する資料や映画に関する資料をできる限り集めています。学校資料、社史、旧調布町や神代村の発行物、古い地図や昭和の電話帳など、書店で売っていないものは市民のみなさんのご協力が必要です。古い写真や古文書など本のかたちでないもの、迷ったものもぜひ図書館へお持ちください。



映画資料は、「映画のまち調布」の足跡をたどる日活・大映を中心とした日本映画の資料や、外国映画も含めた劇場公開映画のパンフレット・ポスター、撮影台本など、幅広い資料を収集しています。

ご寄贈いただける資料がありましたら、図書館までご相談ください。

水木しげるさんのコーナーができました

平成28年10月、中央図書館5階に漫画家・水木しげるさんのコーナーが誕生しました。

水木しげるさんは昭和34年から調布市にお住まいになり、平成20年3月には調布市名誉市民として顕彰されました。惜しくも平成27年に逝去され、命日の11月30日は「ゲゲゲ忌」と命名されました。

図書館との関わりは、昭和57年の講演会に来ていただいたのが始まりです。昭和63年からは「図書館だより」の表紙画をお引き受けいただき、現在も水木プロダクションのご協力を得て、おなじみの妖怪たちが表紙を飾っています。

平成4年に109冊の著作を寄贈していただいたことをきっかけに、図書館では水木さんに関連する資料を収集してきました。その中から、貸出用の資料を常設するために開設したのがこのコーナーです。どうぞ水木さんの世界をお楽しみください。



『調布市立図書館50周年記念写真集』を発行

平成28年6月10日、調布市立図書館は50周年を迎えました。

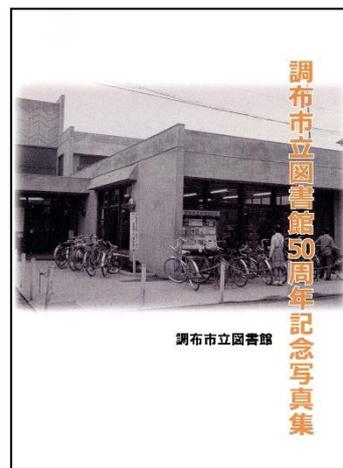
この50年間、市民に支えられて成長してきた図書館の姿を、ぜひ多くの方々にご覧いただきたいと思い、図書館が誕生した頃の写真を中心に写真集を作成しました。

表紙は文化会館たづくりに移転する前の中央図書館です。

小さいけれど調布駅前であり、道路からガラス越しに書架が見える設計は、当時としては大変画期的だったそうです。

職員が残してきた写真の中から、11の図書館の建築時の様子やさまざまな活動、使用していた道具類などがわかる写真を集めました。

各図書館に所蔵していますので、貴重な写真の数々を是非ごらんください。



■ 小冊子『F C東京選手の 私のすすめるこの一冊 2017』



調布市は、基本計画の中で「F C東京等とのパートナーシップ」を掲げ、味の素スタジアム（調布市西町）をホームスタジアムとしているF C東京を、平成11年から応援しています。

地域ゆかりのチームや選手を通じたスポーツの振興と読書推進のため、F C東京と調布市立図書館が連携して、この冊子は作られました。

4回目となる今回はF C東京トップチーム34選手から回答をいただきました！

お気に入りの選手が、どんな一冊を紹介しているのか、ぜひご覧ください。

調布市立図書館全館で無料配布しているほか、調布市立図書館ホームページでもご覧いただけます。紹介された本は、中央図書館4階のF C東京応援展示コーナーに展示しています。

『リバース』 湊かなえ著、講談社、2015

〈感想〉湊かなえさんの本が好きで読みました。ミステリーが好きなので……。読んだのは2016年の2月くらいです。最後に「そういうことか!!」と思うことがあってびっくりしました。



DF 4 吉本 一謙選手



■ 都立神代高等学校の生徒さんが ポスターを描いてくれました

都立神代高等学校2年生の生徒さんが、図書館マナーの向上と、利用促進を呼びかける103枚のポスターを描いてくれました。高校生の新鮮な視点から図書館に寄せる思いを描いた、どれも個性豊かな作品ばかりです。中央図書館中階段に、8月31日（木）まで掲示しています。ぜひご覧ください。



■ 「調布のあゆみ」新連載が始まります

「図書館だより」第208号（平成20年6月25日発行）から、第243号（平成29年3月25日発行）まで、「調布のあゆみ」に「地域ゆかりの歴史・文化・伝統」を連載いただいた井上明枝さんから、調布市郷土博物館学芸員の関口宣明のぶあきさんにバトンが託されました。長きに渡り執筆して下さった井上明枝さんに心から御礼を申し上げます。

関口宣明さんの新連載もどうぞご期待ください。

調布で明治から昭和にかけて口伝えされた話には、自然と深く関わっていた村の生活と、急速な街の移り変わりに対する人々の思いが映し出されています。その中から、動物や家の盛衰にちなんだ話をご紹介します。

1. 村の狐話

市内には、狐やムジナが人を化かしたり、大蛇が人を驚かしたりする動物の話が数多くあります。これらは、野川周辺をはじめ、村境、古い塚といった開拓しにくい場所に多く伝わっています。例えば、昭和初め頃のこと、農家の人々は、東京まで田畑の肥料となる「下肥」をもらいに出かけていました。ある村人が、夜明け前に荷車を牽きながら、甲州街道の砂利道を通り、野川まで歩いていきました。当時、野川の辺りは雑木などで覆われて家も少なく、川向うには隣村の墓地がありました。馬橋にさしかかった時のことです。橋から下流にかけて、提灯の火がずらっと並んでいるのが見えました。村人は、これが伝え聞いていた「狐火」、つまり狐の仕業によるものだと確信したそうです。

このように暗闇や村の境界で、狐やムジナなどが怪しい火を人に見せる話は沢山伝えられています。それらは、私たちが古くから神様や死者のために行なってきた、お盆の迎え火、送り火、盆提灯、火祭りあるいは人間がかつて夜間に行なっていた嫁入りなどのイメージと重なります。

調布に伝わる動物の話には狐にまつわるものがもっとも多く、人が化かされてソバ畑や竹やぶのなかを一晩中歩かされたり、持っていた魚や油揚げをとられたりなど、狐が人に災いをもたらす話が目立ちます。狐は不思議な力を持ち、農耕の守り神であるお稲荷様の使いとも考えられてきました。村では狐を粗

末にすると祟^{たた}られると畏れられ、また狐は人を化かすものだという共通した信仰がありました。これらの話には、人が土地の開拓によって動物の居場所を狭めてきたことに対する、狐の抵抗を想像した村人の気持ちがよく表れています。

2. 家の盛衰話

街道沿いの米間屋が、門付け^{かどづけ}（宗教上の寄付を募る行為）にやってきた尼さんを泊めたら、お礼として弘法大師像を置いていきました。するとその家はだんだんと景気がよくなりましたが、御像を上石原の大師堂に移したらその家は衰えたということです。同じように、旅人に親切にした家が、商売の元手を提供されて大店になったという話も伝えられています。家の盛衰にまつわる話は、甲州街道ができて、人々がますます活発に往来するようになった時代を背景にしています。

このような不思議な話は、不作や病気などの心配事が多かった時代に、村人が何を畏れ、何を願ったのかを知る手がかりにもなり、調布の貴重な文化遺産といえるでしょう。

【参考文献】

『調布の動物ばなし』

調布市郷土博物館 編集・発行

「大川端の提灯行列」

小林良三著 （未刊資料）

刊 行 物 番 号

2 0 1 7 - 5 4

図書館だより 第244号

平成29年6月25日発行 [市内印刷]

発行 調布市立図書館

〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1

TEL 042-441-6181

<http://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/>